

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第21回大会

1997年3月26日～28日、広島大学理学部（東広島市）において第21回日本藻類学会大会を開催した。大会会長は中野武登氏（広島大学）で、一般講演は70題（うち展示発表は19題）におよんだ。

大会1日目にエクスカッション「南西海区水産研究所見学および宮島周辺島めぐり」がおこなわれた（詳細については本誌掲載の参加記を参照されたい）。大会2日目の午前中にはオーガナイザー濱田仁氏（富山医科薬科大）および中野武登氏（広島大）による公開シンポジウム「地球環境と藻類」がおこなわれ5名が講演した。また、午後からは一般講演をおこなったが、発表数が多かったため展示発表の会場を含め、計3会場を用いて発表がおこなわれた。夕刻、同会場で総会を開催した後、貸し切りバスにて東広島平安閣へ移動し懇親会をおこなった。懇親会はシャンデリア煌めく下、外国からの参加者7名が紹介され賑やかに、かつ国際色豊かにおこなわれた。大会の運営にあたっては、中野大会会長を始め、竹下俊治氏外多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げます。

第21回大会参加者名簿

青木優和、秋野秀樹、鯉坂哲朗、熱海美香、阿部英治、有富由香里、有賀祐勝、飯田高明、飯田勇次、飯間雅文、池原宏二、池本尚人、石井佐知子、石川依久子、石田健一郎、石本佳代、板倉茂、市村輝宜、伊藤泰二、伊藤律子、稲垣祐司、井上勲、今井一郎、今泉真知子、岩下演久、岩滝光儀、植田邦彦、宇佐美昭二、内田卓志、村上裕重、江端弘樹、江原恵、恵良田眞由美、大谷修司、大野正夫、大濱武、大森和子、大山温美、奥田一雄、垣田浩孝、加崎英男、片山舒康、片山裕行、金井塚恭裕、神谷充伸、唐木沢秀之、川井浩史、川口栄男、川嶋昭二、河地正伸、河邊博、河南恵、神田真治、菊地和夫、菊池則雄、北山太樹、金南吉、草薢真紀、熊野茂、倉島彰、栗原暁、小亀一弘、小林艶子、小林奈津子、小鷲繁実、近藤貴晴、齊藤順子、齋藤宗勝、阪本憲司、佐々木謙介、佐藤征弥、澤部かおり、重中義信、柴田涉、杉山孝一、Sutheewat, S., 須谷昌之、関口弘志、芹澤如比古、Song, L.Soleman, G. G., 高野敬志、高山晴義、瀧谷明朗、竹下俊治、竹中裕行、田中次郎、谷昌也、種倉俊之、樽谷賢治、千原光雄、辻

村茂男、都筑幹夫、網島優子、Triet, V. D., Day, J. G., 寺田竜太、寺脇利信、徳田拓士、長崎慶三、長里千香子、長島秀行、長島泰子、中嶋泰、中野武登、中原美保、中原紘之、中村恵理子、中山剛、名畑進一、野崎久義、能登谷正浩、野中満、野呂忠秀、花方信孝、馬場俊典、羽生田岳昭、濱田仁、林田文郎、原慶明、半田信司、樋口澄男、平岡雅規、廣田達也、福島博、藤田大介、藤原哲丘、藤原宗弘、保科亮、堀貫治、堀口健雄、堀輝三、本田俊雄、前川行幸、牧野愛、松永茂、松山和世、真山茂樹、真山なぎさ、三浦昭雄、水田浩之、三隅昌朗、御園生拓、三井薫、峯一朗、宮坂佳代子、宮崎勤、宮地和幸、宮下英明、宮村新一、宮本政秀、村岡大祐、村瀬昇、本村泰三、守屋真由美、山内信、山賀賢一、山岸高旺、山岸幸正、山口峰生、山下博和、山田信夫、山本民次、山本鎔子、柳宗秀、横田圭祐、横濱康繼、吉川浩二、吉崎誠、吉田忠生、吉田裕之、吉田雅範、吉永一男、李眞愛、Raikar, S., 渡辺佐知子、渡辺哲、渡辺信（以上178名）

2. 編集委員会・評議員会

3月26日に国民年金健康保養センターひがし広島2階会議室において英文誌編集委員会および和文誌編集委員会を合同で開催した。和文誌について堀口編集委員長より第44,45巻「藻類」の編集状況に関する報告があった。また、45巻2号以降の企画などについて、担当する編集実行委員と、その事項について紹介があった。また、英文誌に関しては川井編集長から「Phycological Research」の編集状況、投稿状況、新編集体制についての報告があった。来年度以降の出版契約に関し未だブラックウェル社から見積がないこと、また、ブラックウェルが昨今の急激な円安により採算が合わなくなったため、値上げ要求を示唆していること、さらに、思ったほど団体会員が増えていないため実益が乏しく、団体会員を増やす努力をしてほしいと言っていることが報告された。

評議員会を引き続き同会議室で開催した。1997年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関しての審議を行った。内容に関しては総会の項を参照されたい。また、藻類学会の大会期日が他学会の大会期日と重なることについて、大会参加者を増やすためにも調整が必要であるとの強い意見が出されたが、これは懸案事項でもあり、今後は各委員が関係学会と連絡をとりながら改善するよう努力することとなった。編集委

員会・評議員会開催にあたっては中野武登氏を始めとする広島大学の関係者に変なお世話になった。記してお礼申し上げる。

編集委員会出席者：川井浩史，堀口健雄，鯉坂哲郎，今井一郎，藤田大介，飯間雅文，井上勲，北山大樹，堀輝三，峯一郎，本村泰三，渡辺信，横濱康継，（オブザーバー：石川依久子，真山茂樹，大谷修司）

評議員会出席者：石川依久子，大谷修司，田中次郎，真山茂樹，有賀祐勝，市村輝宣，井上勲，奥田一雄，川井浩史，川口栄男，中野武登，前川行幸，吉崎誠，渡辺誠，（オブザーバー：堀口健雄）

3. 1997 年度総会

1997年3月27日の講演終了後，同会場において総会を開催した。石川依久子会長の挨拶の後，山本民次氏（広島大学）を議長に選出し議事に入った。

【報告事項】

● 庶務関係

(1) 会員状況(1997年3月24日現在)：名誉会員2名，普通会員621名，学生会員64名，団体会員53名，賛助会員11名，外国会員98名(28カ国)，国内購読26件。(2) 1996年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は1,200,000円であった。(3) 第20回大会を1996年3月28日～29日東邦大学理学部にて開催した。(4) 評議員会を3月27日東京水産大学で，総会を3月28日東邦大学にて開催した。(5) 1996年10月9日に秋季シンポジウム「礁池におけるモズク類2種の生態と養殖」・「長崎県下における磯焼けとその回復のための技術的問題」を九州大学にて開催した。(6) 1997年度および1998年度の会長・評議員の選挙が行われ新役員が決定した。(7) 新編集長・新編集実行委員・新編集委員が選出・委嘱された。(8) 東京学芸大学の学会事務局の電話番号が4月から0423-29-7524に変更されるとのアナウンスがあった。

● 会計関係

(1) 1996年12月31日現在の会費納入率は，普通会員95%，学生会員100%，賛助会員100%，団体会員81%，外国会員98%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項参照のこと。

● 編集関係

(1) 1996年度に発行した和文誌「藻類」第44巻1～3号は，総頁数191頁。内訳は掲載論文数3，短報0，総説1，研究技術3，記事12，その他雑録であった。(2) 1996年度に発行した英文誌「Phycological Research」第44巻1～4号は，総頁数218頁，掲載論文33（うち，外国からの投稿22）。

【審議事項】

● 庶務関係

(1) 1997年事業計画：1) 「アジア地域の微生物研究ネットワークに関するシンポジウム - 微細藻類の生理活性物質，毒性，多様性，系統分類及び系統保存 -」の共催，2) 第21回大会・評議員会・総会（広島大学）の開催，3) 和文誌「藻類」45巻1～3号の発行，4) 英文誌「Phycological Research」45巻1～4号の発行。(2) 秋季シンポジウムは総会時点では開催案がなかったが，「藻類」2号の記事に間に合う時点で開催希望があれば，その決定を持ち回り評議員会に委ねることが了承された。(3) 1998年～2000年の「Phycological Research」の出版契約を本年度中におこなわなければならないが，未だブラックウェルから具体的な金額が提示されていない。4月中旬までに具体的な金額が提示されるが昨今の円安の影響により相当額の値上げが予想される。その時点で対応が討議された結果，従来の契約金の30%～35%高ままでの場合は単年度の契約を結び，それ以上の値上げの場合は評議員会が対処することで了承された。(4) 植物分類学関連学会連絡会から共同名簿を作ることを提案があったが，藻類学会としては「藻類」紙上で名簿掲載希望者を募り，その人数分の分担金を学会が負担することで合意がなされた。(5) 今秋開催される植物分類学関連学会連絡会の合同シンポジウムの演者として，藻類学会からは井上勲氏にお願いすることになった。(6) 来年度の藻類学会大会は下田(3月26日～27日：下田東急ホテル)で，再来年度は山形で，それぞれ横濱康継氏および原慶明氏にお世話をお願いすることになった。(7) 学会賞の制定について：昨年度おこなわれたアンケート調査結果を基に学会賞と論文賞の2案が作られたが，本年度は以下の論文賞のみを制定・実施するにとどめ，学会賞については今後内容についてさらに検討していくことが了承された。

名称：日本藻類学会論文賞

趣旨：学会誌である「Phycological Research」および「藻類」に質の高い論文を発表した会員の貢献を讃えるために本賞を制定する。

授賞対象者：過去1年間における「Phycological Research」および「藻類」に投稿された原著論文で、本会会員によるもの（国籍は問わない）。

選考方法：前年の1年間に出版された「Phycological Research」および「藻類」に投稿された原著論文の中から編集委員（和英編集委員長，副編集長，編集実行委員および編集委員）および評議員による投票で決定する。投票に際しては、本賞の候補としてふさわしいと考えられる論文1編をノミネート出来る。得票数の多かった論文に本賞を授与する。ただし同数の場合には両者授賞とする。

賞：授賞者には賞状を授与する。財源は山田基金より拠出する。

当該年度に掲載されるすべての論文が授賞の対象となる。12月末，または1月初旬に会長が審査員（評議員および日本人の編集委員）に対し，授賞候補者の推薦（投票）を依頼する。推薦（投票）は審査員1名あたり1編とする。事務局は締切日（2月中旬）を待って開票し，最も得票の多かった論文を論文賞の授賞対象とする。決定した授賞者は編集委員会・評議員会での了承を得た上，総会の会場で発表される。その他，授賞者決定までの詳細な事項については事務局に一任された。(8) 英文誌編集の補佐として編集補助委員(Editorial Assistant)を新設することが了承され神谷充伸氏（神戸大）に委嘱された。(9) 学会員外に「藻類」の記事を依頼した場合，著者に対する礼として，別刷り50部を学会負担で差し上げることが了承された。(10) 「藻類」の紙質に関し，印刷屋から技術上の問題により従来のアート紙からコート紙に変更してほしいと要望があった。印刷された2つのサンプルには目に見える大きな違いはなく，費用も若干安くなることから，コート紙に変更することが了承された。(11) 本年3月に共催した「アジア地域の微生物研究ネットワークに関するシンポジウム」のプロシーディングスを「Phycological Research」の別冊として出版することが了承された。なお，経費はすべてシンポジウムが負担するものとし，通常の学会誌と同等の審査を経たうえ，受理されたものだけを掲載する。(12) 昨年の総会で提案された2005年に国際藻類学会大会を日本に誘致する事に関し，今後は藻類学に関連する他学会にも話をもちかけ，共催の形で誘致することが了承された。(13) 植物分類学関連学会連絡会および自然史学会連合へは，当面の間，学会庶務と田中次郎氏がそれぞれ藻類学会代表として出席することが確認された。(14) 別刷り価格表を実状にあったものに変更することが了承された。今回変更された価格表では200部程度の注文の場

合は以前の価格と変わりがなく，少量の部数ではより安く，また大量の部数では若干高くなる。(15) インターネット上に藻類学会のホームページ設置の要望が出され，事務局で検討することになった。

●会計関係

(1) 1996年度一般会計決算報告および同監査報告は表-1の通り承認された。(2) 1996年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表-2の通り承認された。(3) 1997年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表-3の通り承認された。(4) 1997-8年度の会計監事は，総会に先立ち開催された評議会で選ばれた岡崎恵視氏（東京学芸大）と片山舒康氏（東京学芸大学）が承認を受けた。

4. 評議員の交代

本会評議員の榎本幸人氏（近畿地区）は都合により本年3月末日をもって評議員を辞退された。本会付則第4条により次点の中原紘之氏に近畿地区の評議員に就任していただいた。任期は残任期間である1998年12月31日までである。

5. 植物分類学関連学会連絡会議

表記の第5回会合が1997年3月21日神奈川県立生命の星・地球博物館で開催された。藻類学会からは代表幹事の代理として川井浩史氏が出席した。他学会からは植物分類地理学会，種生物学会，日本植物分類学会，植物地理・分類学会，日本シダ学会の代表が出席した（地衣類研究会，日本菌学会，日本蘚苔類学会は欠席）。懸案の共同名簿に関しては，本年度中に作成の方向で進めることとし，参加を表明する学会は8月中旬に名簿をファイル形式で担当幹事に提出することになった。また，広報活動のため千葉大のサーバーに連絡会議のホームページを作成することになった。今秋の日本植物学会大会の会期中に，植物分類学関連学会連絡会で合同シンポジウム「種多様性の認識はどこまで進んだか」（世話人：植物分類地理学会の秋山弘之氏）を開催することになった。このシンポジウムの目的は，種の多様性がそれぞれの分類群でどこまで進んでいるのかについて，異なる生物材料を用いる研究者が共通認識をもつことにある。講演者は4名で動物学会から片倉晴雄氏，植物分類学会から伊藤元巳氏，菌類学会から杉山氏が予定されている。なお，藻類学会からは本年度総会の録事に記したように，井上勲氏に講演をお願いした。

表-1. 1996年度一般会計決算 (1996.1.1～1996.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,988,897	和文誌印刷・発送費	1,540,859
普通会員	4,074,000	印刷代	1,214,061
学生会員	320,000	別刷代	145,063
外国会員	529,897	発送費	181,735
団体会員	782,000	英文誌印刷・発送費	4,552,500
賛助会員	220,000	編集費	300,746
販売	413,500	編集補助費	60,000
定期購読	289,350	通信連絡費	200,164
バックナンバー	124,150	事務用品費	40,582
別刷代	89,550	庶務費	644,219
超過頁負担金	0	事務用品費	48,665
広告代	120,000	会議費	33,432
受取利息	2,500	通信・印刷費	279,595
文部省刊行助成金	1,200,000	諸雑費	282,527
英文誌還付金	45,953	幹事旅費補助	4,000
雑収入	4,532	事務補助	185,600
寄付金	6,000	20回大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助費	50,000
小計	7,870,932	小計	7,397,924
前年度繰越金	6,847,239	次年度繰越金	7,320,247
合計	14,718,171	合計	14,718,171

一般会計貸借対照表 (1996.1.1～1996.12.31)

貸方 (円)		借方 (円)	
普通預金 (第一勧業, 京都)	2,541,049	未払金	543,980
普通預金 (第一勧業, 新宿)	1,322,701	前受会費	2,710,000
郵便振替貯金 (札幌)	2,129,125	借受金	222,000
郵便振替貯金 (新宿)	4,361,100	次期繰越金	7,320,247
現金 (事務局)	91,125	前期繰越金	6,847,239
現金 (筑波)	128,294	当期余剰金	473,008
未収金	222,833		
合計	10,796,227	合計	10,796,227

表-2. 1996年山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (1996.1.1～1996.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
山田追悼号売上金	7,000		
コンプ類研究売上	1,000		
受取利息	44,398		
小計	52,398	小計	0
前年度繰越金	2,552,382	次期繰越金	2,574,780
合計	2,574,780	合計	2,574,780

山田幸男博士記念事業特別基金会貸借対照表 (1996.1.1 ~ 1996.12.31)

貸方 (円)		借方 (円)	
定期預金	1,900,000	次期繰越金	2,574,780
普通預金	667,368	前期繰越金	2,552,382
現金	412	当期余剰金	52,398
未収金	7,000		
合計	2,574,780	合計	2,574,780

日本藻類学会 1996 年度決算報告書に対し記名捺印する。

1997 年 2 月 20 日

会 長 吉田忠生 印

会計幹事 小亀一弘 印

決算書が適正であることを認める。

1997 年 2 月 20 日

会計監査 田澤伸雄 印

会計監査 工藤利彦 印

表 -3.1997 年度一般会計予算案 (1997.1.1 ~ 1997.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,450,400	和文誌印刷・発送費	1,970,000
普通会員	3,858,200	印刷代	1,500,000
学生会員	288,000	別刷代	250,000
外国会員	523,800	発送費	220,000
団体会員	572,400	英文誌印刷・発送代	4,500,000
賛助会員	198,000	編集費	450,000
販売	340,000	編集補助費	150,000
定期購読	270,000	通信連絡費	200,000
バックナンバー	70,000	事務用品費	100,000
別刷代	250,000	庶務費	490,000
超過頁負担金	0	事務用品費	50,000
広告代	120,000	会議費	40,000
受取利息	2,500	通信・印刷費	250,000
文部省刊行助成金	1,200,000	諸雑費	250,000
英文誌還付金	50,000	幹事旅費補助	40,000
雑収入	5,000	事務補助	150,000
寄付金	300,000	21回大会補助費	120,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小計	7,717,900	小計	7,720,000
前年度繰越金	6,847,239	予備費	7,318,140
合計	15,038,140	合計	15,038,147

1997年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算案 (1997.1.1 ~ 1997.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
受取利息	45,000		
小計	45,000	小計	0
前年度繰越金	2,574,780	予備費	2,619,780
合計	2,619,780	合計	2,619,780

 (学会録事続き)

6. 秋季シンポジウムについて

本年度3月の総会時点では秋季シンポジウム開催の申し出が無かったが、4月に入り有賀祐勝氏(東京水産大)より、国際海藻シンポジウムの開催者である国際海藻協会日本支部が今秋開催を企画しているシンポジウム「海藻の利用(仮題)」を藻類学会と共催したいとの申し出があった。総会の決議にしたがい、この件につき持ち回り評議員会をおこなった結果、賛成多数で同シンポジウムを藻類学会共催の秋季シンポジウムとすることに決定した。

今期の日本植物学会大会では口頭発表で使用できる機器はOHPのみとした。このことに関し、4月16日に日本植物分類学会会長の鈴木三男氏より、「今後の大会ではこれを前例とせずスライド映写による発表ができるよう大会開催地に配慮を求める」申し入れを植物分類学関連学会で共同でおこないたい旨の呼びかけがあった。時期を逸すると申し入れは来年になってしまうため、早急な回答の必要があり、持ち回り評議員会によりこの件を審議した。その結果、賛成12、反対1、未回答4となり、申し入れを共同でおこなうことを鈴木氏に回答した。

7. 植物学会大会でのスライド映写に関する申し入れについて

新 入 会

会 員 異 動

住所変更・勤務先変更・電話番号変更

会 員 異 動

